



§1 令和7年度農水概算予算「2兆6389億円」要求を鑑みて

農林水産省は8月末に、2025年度農林水産予算概算要求総額2兆6389億円を発表しました。令和6年度2兆2686億円から3700億の大幅な増額となっており、これは「食料・農業・農村基本法」が改正された翌年ということもあり、農業の構造転換の実現に向けて動き出している証左とも言えます。

概算要求の主な項目として

1. 食料安全保障の強化
2. 農業の持続的な発展、農村の振興
3. みどりの食料システム戦略による環境負荷低減に向けた取組強化
4. 多面的機能の発揮
5. カーボンニュートラルの実現・花粉症解決に向けた森林・林業。木材産業総合対策
6. 水産資源の適切な管理と水産業の成長産業化

今回の予算では、農業の持続可能性と成長を目指す重点的な取り組みが盛り込まれており、特にスマート農業技術の導入や技術革新が大きな柱となっており、スマート農業関連予算として以下の項目が挙げられます。

1. 持続的生産強化対策事業(果樹生産増大への転換) 58億
2. 地域計画実現総合対策 48億
3. 農地利用効率化等支援交付金 27億
4. 新規就農者育成総合対策 148億
5. 多様な農業人財の意欲的な取組の推進 32億
6. スマート農業技術活用促進集中支援プログラム 410億
7. スマート農業技術活用促進総合対策 69億
8. 農業関連試験研究国立研究開発法人の機能強化
9. スマート農業、農業支援サービス事業導入総合サポート事業 32億
10. 農地耕作条件改善事業 238億
11. 農山漁村振興交付金 103億
12. 鳥獣被害防止対策とジビエ利活用の促進 122億
13. 日本型直接支払 844億



まだまだ現場でのスマート農業の導入は始まったばかりです、農業者の高齢化・減少が進む中、スマート農業技術の現場導入は期待されており、農業経験者が使用するスマート農業から、農業未経験者でも使用できるスマート農業の実現や、細かい作業や専門的な技術のスマート化が、今後求められていくと思われます。2025年度予算では、スマート農業技術の導入だけでなく、食料安全保障の強化、施設の老朽化対策に重点を置いた施策が含まれています。予算要求は前年比16.3%増加しており、さらに、現場でのコスト増加(エネルギーコスト、資材費など)への対応も重要視されている事から、追加の資金が投入される可能性が高く、最終的な予算が3兆円を超えるかもしれません。特に、地域の農業支援や新しい技術導入支援の強化は、政府が農業分野の持続可能性を重視していることを示しています。この傾向は、農業分野の持続可能な成長と食料自給率の向上を目指す上で非常に重要ですが、具体的な成果を上げるには、これらの予算がいかに効率的に配分されるかがカギとなると思われます。

弊社としても、スマート農業支援事業には今後ともより一層力をいれ、皆様のもとへ技術や最新情報、資材などをお届けいたしますのでご期待ください

年末年始のお知らせ

2024年12月28日(土)より 2025年1月5日(日)

年末年始休業期間中は何かとご迷惑をおかけいたしますが何卒ご了承のほど、お願い申し上げます。

§ 2 「最古にして最高のスマート農業？」農業用くん煙剤について



日本曹達(株)提供

施設栽培では、人為的に気象条件を作り出すため、露地栽培とは異なり病害虫の発生が多く、防除作業に費やす時間や労力がかかります。また、施設の規模も小型のものから1,000㎡以上の大型ハウスまで多々あり、ハウス内での収穫作業や栽培管理はとて重労働であります。このような状況下、

施設内の病害虫の的確な防除、その作業の簡易化、作業者の安全確保等の解決策として、「くん煙剤」があります。「くん煙剤」は約70年前に開発され、現在でも非常に省力的で効果的な防除方法であり、「最古にして最高のスマート農業？」のキャッチフレーズもあります。今月はこの「くん煙剤」についてご紹介します。

くん煙剤は、1952年に家庭用殺虫剤(衛生害虫対象)として発売された後、1968年に施設園芸用として上市され、約30剤が農薬登録され販売されてきました。ピーク時2007年には約400tの販売がありました。2021年では22tと、ピーク時の5%程度の販売となっています。しかしながら、国の総合防除基本指針の策定もあり、有効成分の使用量削減や作業者暴露等の観点から、今後この「くん煙剤」がみなおされる場面が出てくると思われます。

「くん煙剤」は、加熱により有効成分を煙状の微細な粒子(1~5ミクロン)として空中に拡散し、作物表面に付着させ、もしくは病害虫に直接接触・吸引させて効果を発揮させる薬剤です。現在市販されている剤型としては、自燃式(缶型・ドーナツ型)と熱源利用式(顆粒型)があります。使用薬量はハウス容積で決まるので、ハウス容積を正確に把握し、適正な薬量にて使用することが大切です。詳細な使用方法や注意点については、燻煙剤の使い方 QR コードの YouTube にて、詳細な情報提供がなされています、参考にしてください。

【くん煙剤商品紹介】



【くん煙剤の使い方】



分類	剤型	特徴	
自燃式くん煙剤缶型	有効成分と発熱組成物を混合し粉体・顆粒を缶に収容	点火部をスリ板でこすって点火し発煙させる	テルスタージェット
自燃式くん煙剤ドーナツ型	有効成分と発熱組成物を顆粒化し打錠機でドーナツ型に成型	専用の吊具に錠剤をのせ点火紙をセットして点火し発煙させる	モスピランジェット ロブラールくん煙剤 ダコニールジェットなど
熱源利用式くん煙剤	有効成分を粒状に成型	電熱加熱式くん煙器などの熱源を利用して有効成分を煙化する	硫黄粒剤(くん煙剤)

<くん煙剤の特徴>

1. 粒子なので作物や病害虫によく付着し、防除効果にムラがありません。また、ハウスの規模に応じてくん煙剤を分散してくん煙すれば、ハウスの隅々までよく拡散します。
2. 点火紙にマッチやライターで点火するか(ドーナツ型)、点火棒をスリ板でこすって(ジェット型)点火し、くん煙するだけなので、非常に簡単です。一般に、くん煙作業は夕方行うので、日中の作業に影響がなく、特に収穫期には労力の配分ができ便利です。
3. 煙は微粒子なので、収穫間近にくん煙しても果実の汚れはほとんどありません。
4. 防除に水を使用しないので、ハウス内の湿度を高めず、病害の発生に影響を与えません。
5. 薬剤散布法とは異なり、直接人体に薬剤がふれることが少ない防除法です。